

療育ねっとわーく川崎 防災研修会報告

『避難困難者と言われている方々に対する災害時対応について考える意見交換会』開催報告

3月23日(火)に防災委員会企画による防災研修会を開催しました。今般のコロナ禍の影響をまともに受け、会場変更を余儀なくされ、参加いただける人数も極端に縮小しての開催となりました。しかし、法人としては初めてZOOMによる同時配信を試みる機会ともなったことは、今後に向けての貴重な経験を得ることが出来ました。また、今回の研修会は、多摩区内の障害福祉関連事業所にも参加を呼びかけ、複数の事業所の参加を得ることが出来ました。

今回の研修会は、昨年9月30日に開催した、地域で暮らす当事者家族の方々からの声を直接、行政担当者に届けることを目的とした研修会の第2弾ともいえる研修会であり、今まで、私どもに寄せられた声を大きく5つの課題にまとめ、行政の見解、回答等を聞かせて頂きながら、意見交換を行っていくという進め方をしました。

5つの課題(提起)の概略

- 1) 周知の必要性：例えば、指定避難所すべてに「要配慮スペース」が設置されることになったと言っても、その情報が広く深く知らされていなければ、何の意味もない。この部分で重要な役割を担い得るのは、行政なのではないでしょうか。行政として、現在どのような対応を考えているのか、お答えください。
- 2) 分散避難について：避難所と言えば公立の小中学校というのではなく、もっと身近な地域の資源を活用できないのか？障害を持っている者にとって、指定避難所にすら行く事が困難な状況があります。この様な状況に対して、行政としての見解をお聞かせください。
- 3) 医療的ケアが必要な方の避難：医療的ケアが必要な方の避難に関しては、その困難性、重要性に関して私たちの認識と一致していることは、承知していますが、さらに、当事者の方々の実態を直接把握し、スピード感を持って、対応していただく必要を強く感じます。いかがお考えですか。
- 4) 福祉避難所(二次避難所)について：福祉避難所(二次避難所)の利用のし難さ等、私たちにあって、今一つその実態がよくわかりません。またその課題は、多くのところから指摘されているにも関わらず、ほとんど改善されないという実態に関して、どのような見解をお持ちなのか、聞かせてください。
- 5) 個人向け災害時対応計画の必要性：当事者一人一人の生活状況等を充分把握しているはずの、相談支援事業所(相談支援専門員)等が、一人一人に対して災害時対応計画を作成する必要性を強く感じます。

この5つの課題に対して、ひとつずつ回答をいただきながら、意見交換を行いました。

- (課題全体) この課題全てにおいて、行政としても、課題として充分認識はされているという確信は取れたのではないかと感ずることは出来た。
 - (周知の必要性) 「要配慮スペース」その中身に関しては、その形は出来上がったものの、検討の余地が多く残されている実態が見えて来た。色々な方法を使って周知しているつもりだが、周知不足であることは認識している
 - (周知の必要性) 避難体験等で好ましくない対応を指摘するのではなく、良かった対応(体験談)も広めていくことも重要。
 - (分散避難について) 行政としては色々な分野からの協力が必要という基本スタンスを元に「見方をたくさん創っていく段階にある」とのこと。参加者側から『通所先への避難』『養護学校』との連携等の実践例が紹介された。
 - (医療的ケアが必要な方の避難) 昨年2度にわたって調査を行う。その結果をベースに検討を始め、実態が判ってきた段階。災害時の電源確保が必要性大。購入保護等考えている。また、医療機器メーカーと話を進めている。この部分の重要性、スピード感が必要なこと等、充分認識しており、世の中的なコンセンサスが出来つつあると捉えている。参加者より「地域で取り残されない支援」をお願いしたいという提言在り。
 - 〔福祉避難所(二次避難所)について〕システムは出来ているが、その実態は多くの課題を抱えている。市内の200の施設、事業所と協定は締結しているが、災害時、福祉避難所を開設する可能性があると言うだけで、必ず開設するというものではない。現実、今まで、川崎市内で福祉避難所が開設されたことはない。多くの課題を共に考えていけたらと思う。
 - (個人向け災害時対応計画の必要性) 必要性は、充分認識しており、令和3年10月より、計画作成がスタート出来る様に準備を進めているが、肝心の相談支援事業所等の反応が今一つである。
- ☆最後に、防災委員会より、この様な集まりの定期開催と防災を核とした地域ネットワークづくりの提言がなされました。(療育ねっとわーく川崎 防災委員会 五十嵐)

会員・賛助会員募集

(連絡先) 〒214-0014 川崎市多摩区登戸2981 サポートセンター Rond
 TEL 044-930-0160 Fax 044-930-0128 e-mail: tani@rond.jp http://rond2981jimdo.com/
 (会費振込先) 郵便振込 00280-2-26842 特定非営利活動法人療育ねっとわーく川崎
 ■会費・賛助会費の別をお書きください。振込用紙が必要な方はお知らせ下さい。年会費 2500円 賛助会費 一口 1000円

SSKS 療育ねっとわーく川崎

2021年3月20日発行
 No.239 (4000部)
 NPO法人
 療育ねっとわーく川崎
 発行者 江川 文誠
 編集者 谷 みどり



Q、今年で東日本大震災から10年になります。新聞からなかで見えたのですが、療育ねっとわーく川崎は震災直後から支援活動をしているのですが、どのような支援活動を行ってきたのでしょうか？また支援の経験で今後来るであろう関東の地震で、なにかこうしていた方がよいと思うことがあれば教えてください。

A、療育ねっとわーく川崎は被災地である岩手県山田町に、職員の家族が住んでいたという縁もあり、震災直後の3月25日に、必要であろうと思われる物資を法人の福祉車両に積み込み現地へ赴きました。現地へ行ってみると避難所には支援物資はたくさん届いていたのですが、被災者の皆さんが本当に必要とするものはほとんどありませんでした。そこで皆さんに必要なものをお聞きして物資を運んだことが、支援のスタートとなりました。継続した活動をするため東北大地震ボランティアセンターを立ち上げると多くの方が義援金を寄せてくださり、物資を届けることができました。



3月23日、行政の方と防災研修開催

この支援ができたのも、同じ被災者でありながら、窓口になって支援物資の配布をしてくださった下村さんがいらしたからです。被災者の側になった時、何をすべきかを教えられました。山田町と関わったことで、大震災に向き合うことができ、「防災」の取り組みも我がこととして考え、地域への活動にも広げることができました。

4月13日、「津波に襲われた町岩手県大槌町・山田町」写真展開催。一昨年で現地入りしたカメラマンの川上氏が撮った写真は、あまりにも素晴らしいものであったからこそ目を背けてはいけないものと考え、多摩区役所で開催。その後、各地で写真展を開催。11月11日・長沢中学校で、被災地の実態を山田町被災者の下村さんが講演。11月13日・「震災・つながる・川崎シンポジウム」共催 当事者・支援者の報告。

その後、法人内では、防災委員会を立ち上げ、災害に備えるの取り組みも始めました。

一昨年の台風19号の後には、行政の方たちに災害時における障害者の避難について、当事者の声をきいていただく場を設けました。今後も行政の方とともに災害時における障害者の避難について、どんな障害であっても「あきらめる」ということのない地域になるよう、みなさんと共に知恵を出し合っていけたらと思います。

今月号の目次

- 1 こんなときどうするの………1 療育ねっとわーく川崎防災研修会報告
- 2 ホームドア設置についての課題………2 あれから10年ー下村朱美さんのお話
- 3 忘れない3・11 療育ねっとわーく川崎GDPかわさきの活動………3 防災研修に参加された当事者家族の方の感想………8



忘れない 3.11

療育ねっとわーく川崎 地域活動支援センターGDPかわさきの活動

のり せいどじょうほう 紀さんの制度情報

地域活動支援センターGDPかわさきは活動のひとつとして、2015年よりピアたちばなさん主催による「忘れない3.11 届けよう私たちの思い」に参加しています。

最初の2年間は溝の口駅のペDESTリアンデッキで震災の写真展示や五箇丸水産の物販を行いました。

メンバーさんや療ね会員の障害当事者さんに物販の売り子さんを担当してもらい、初めての参加の時は品物が売れるか心配や戸惑いもありましたが、やってみるとなかなかの売れ行きでほっとしたりもしました。



3年目からは場所が変わり、JR溝の口駅改札前の南北自由通路で行いました。

昨年は溝の口駅でのイベント自体は行われたのですが、コロナの影響で物販ができないということもあり、療ねのサポートセンターで、療ねの職員さん向けに物販を行いました。



今年も物販は行えませんでした、療育ねっとわーく川崎と山田町の繋がり10年を写真展示で行いました。

イベントに参加をさせていただくことは、毎年「私も東北の出身で」とか「実際に当時ボランティア



に行った」などいろいろ

声かけをしてくださったり、お話を聞かせてくださる方がいらっちゃって、遠いところで起きたことではないと実感することです。

今年で10年ですが、これからも他人ごとではないという思いと共に、自分の身にもおこることとして皆さんと一緒に考えていきたいと思ひます。



ホームドア設置についての課題

小田急線の登戸駅で1月から始まったホームドアの設置工事。視覚障害のある方の転落死亡事故が相次ぎ、以前から必要性が認識されながらも整備が遅れていたホームドアについて、前号で取り上げた課題の解決方法をご紹介します。

ホームドアの設置にあたり、課題は「費用・設置工事・車両ごとのドア位置の違い」の主に3つです。

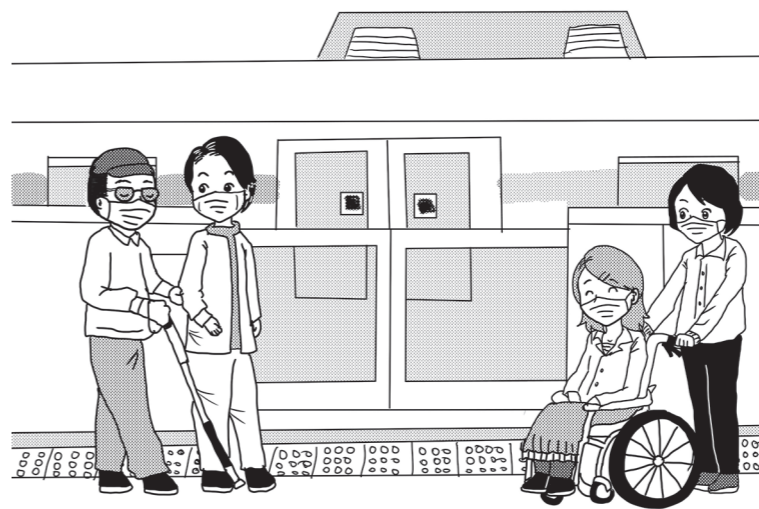
この内、費用面の問題は行政による補助金の増額が効果のある対策になります。1駅で数億円になる設置費用は鉄道会社単独では賄いきれないため、公的な支援も必要です。

また重さのあるホームドアを設置する際には、ホーム自体を補強しなければならず、これにも費用と手間がかかります。ですが、ここ最近「スマートホームドア」という軽量で比較的安価なものが登場しました。通

常のホームドアは重い壁がホーム上にずらつと並び電車のドア部分だけが開く形状でしたが、スマートホームドアは壁ではなく複数本のパイプやロープが昇降する構造となつています。軽量化が可能になつただけでなく、長いロープやパイプを1両分丸ごと昇降させる方式のため、ドアの数や位置が異なる車両でも対応可能という大きなメリットがあります。一方デメリットとしては隙間が多いため、手足や荷物が線路側に出たり、子どもがすり抜けたりしてしまふ可能性がある点です。スマートホームドアは一部の駅で導入されていますが、現在でも従来型の頑丈なものが主流です。

ドアの位置や数が異なる車両が混在する路線での対応策は、基本的にはドア配置の異なる車両を廃車にすることです。具体例として、山手線や田園都市線では1編成のうち2〜3両をドア数の多い「6ドア車」と

して組み込んでいました。しかしホームドアに対応するため、製造から10年前後の6ドア車を全て解体処分し、新しく作った通常の車両に交換しました。このほか6ドア車は複数の路線に投入されていましたが、これらの車両も全て引退することに、現在は各路線でホームドアの使用が開始されています。最近になって、都心部の一部駅で



ホームドアの設置が進められています。今までに多くの命が失われてきた視覚障害のある方に限らず、鉄道を利用する全ての人にとってとても喜ばしいことです。一方で、ホームドアの設置にあたり、ここ最近でなにか革新的な技術が生まれて設置のハードルが急に下がったというわけではありません。いろいろ工夫されたホームドアが開発されています

が、それはあくまでも「ホームドアを設置しよう」という需要が生じたからだと思います。

ホームドアの設置が簡単ではないことはたしかですが、ここ最近急速に整備が進み始めたことを考えると、今までにホームから転落して亡くなった方々のことを思えば整備計画をもう少し早く立てて実行することは出来なかつたのかと感じてしまいます。

(金子文俊)